

# 平成 30 年度 第 1 回放課後見聞録

平成 30 年 6 月 12 日（火）

図書・情報部

各務原高校では、年に 2 回、2 週間の読書週間があります。

「放課後見聞録」は読書週間中のイベントの 1 つで、先生から普段授業では聞けないような学生時代のお話、趣味のお話などを聞くことができる、とても貴重で楽しいイベントです。

今回は、この春に、ウガンダから日本に戻られた大洞麻有子先生から「ウガンダでの青年海外協力隊の生活を終えて」の演題で、お話を伺いました。



## 【お話を聞いた人の感想】

- ・ウガンダというあまりなじみのない国の状況、文化、風習などをお聞きしてとてもためになりました。ウガンダという国が前よりもぐっと身近になった気がします。
- ・ウガンダは発展途上国でとても貧しい国だと分かりました。募金など何か自分でもできることがあったらやってみようかと思いました。水や電気がないのはめっちゃ大変！
- ・国際理解の仕方について理解することができた。日本にいても身近にあるもので協力することができると知った。青年海外協力隊の存在は知っていたけれど、詳しく知ることができたからよかった。今日はありがとうございました。
- ・世界とつながるには自分や自分の国を知ったうえで相手の国との違いを認め、思いやりをもつことが大切だということがわかりました。
- ・国際理解には、留学やボランティアに行くことだけではなく、共通のものをもつことが大切だと分かりました。時に自分の国の宗教のことを知っていることが大切と言っていたので私はあまり知らないから知っていきたいです。
- ・日本人が持つ勤勉さなどは世界にも通じるみたいなので少しは自信が持てそうです。